

6T80

九

保存期限	決裁指定	局長	決行指定
------	------	----	------

大臣		件名		受領
局長	主務	九一式戦闘機構造要領改正ノ件	密第七七七號	番
次官	政務			領
高級副官	參與官			
事務副官	書記官			
主務課員				
官房御用掛				

大臣	局長	主務	課長	局長	課長
----	----	----	----	----	----

昭和三十八年九月一日	昭和三十八年九月一日	昭和三十八年九月一日	昭和三十八年九月一日	昭和三十八年九月一日	昭和三十八年九月一日
------------	------------	------------	------------	------------	------------

昭和三十八年九月一日	昭和三十八年九月一日
------------	------------

決定後

昭和三十八年九月一日	昭和三十八年九月一日
------------	------------

決定後

局長

局長

政務大官  
參與官 同付  
決裁前連帶  
統  
軍  
統  
統  
動  
陸軍省 9.7.27  
陸軍省 9.7.26  
陸軍省 9.7.25  
陸軍省 9.7.31  
陸軍省 9.7.28

陸軍省 9.7.28

3811  
41



陸軍部

通

牒

陸

軍

副官より陸軍航空本部長へ

首題ノ件六月廿二日附航秘第四一九號上申  
ノ通改正セラルヘキニ付該構造要領七口通  
調製差出相成度

陸軍部第四七二三號

昭和九年八月貳日



右構造要領差出アリタル上左案法ハセラレ度

件名 同 右

副官より別紙配賦箇所

昭和六年十二月廿六日附陸軍第五五二六號ヲ  
以テ制定セラレタル九一式戦闘機ノ假制式別紙

構造要領ノ通改正セラレシニ付該構造要領  
既賦目録ノ通送付ス

造ヲ本改正ニ伴フ既成品ニ對スル改修実  
施ニ關シテハ別ニ指示セラルル儀トテ知セラ  
レ度

國書第四八一五

昭和九年八月九日

昭和九年九月十七日

現不送

陸軍

# 説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

0822~0823

3年9月5日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



2280

第八師團		第七師團		第六師團		第五師團		第四師團		第三師團		第二師團		第一師團		近衛師團			配賦箇所		配賦部數小計		
兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部			配賦部數小計		配賦部數小計		
航空本部		關東軍		臺灣軍		第二十師團		第十九師團		第十六師團		第十四師團		第十二師團		第十一師團		第十師團		第九師團		配賦部數小計	
飛行學校部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		兵器部		配賦部數小計	

九一式戦闘機構造要領

配賦表

考 備	部 監 總 育 教					造 兵	兵 器	兵 器 本 廠	築 城 部 本 部	參 謀 本 部	技 術 本 部
	工 兵 學 校	通 信 學 校	士 官 學 校	野 戰 砲 兵 學 校	砲 工 學 校						
			一		一	一	一			一	四
			一		一	一	一			一	四
	部 監 總 育 教										
	計					習 志 野 學 校	教 導 學 校	自 動 車 學 校	重 砲 兵 學 校	騎 兵 學 校	步 兵 學 校

0824



航秘第 四一九號

陸軍省 第七六七號



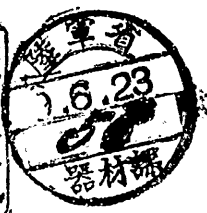
陸軍

九一式戦闘機構造要領改正ノ件上申

昭和九年六月廿貳日 陸軍航空本部長 杉山

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

首題ノ件修正表ノ通改正致度ニ付別紙試験概況及構造要領各二部相  
添へ上申ス

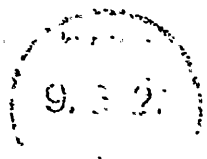


B. 5 立川町空研

5890



飛行器材	主 兵 器 名 稱	陸軍兵器構造要領(器材)中修正表
九一式戦闘機		
七二	葉番號	
差替	修 正	







別紙

九一式戦闘機性能向上試験概況

昭和九年五月二十一日

第一、試験ノ目的

九四式四五〇馬力發動機ヲ装着シタル九一式戦闘機ニ就キ試験シ其ノ性能向上ノ程度及改修ノ範圍ヲ決定シ以テ整備機ノ性能向上ヲ實施スルノ可否ヲ判定スルニアリ

第二、判決

本機ハ現用九一式戦闘機ニ對シ性能ノ向上相當大ニシテ其ノ操縦性能モ大差ナク改修ハ發動機架ハ交換ニ依リ發動機ヲ換裝スルノミニテ機體ニ何等改修ヲ實施スル要ナシ故ニ整備機ノ性能向上ニ適スルモノト認ム

第三、試験成績ノ概要

一、飛行性能

本機ノ飛行性能ハ附表其ノ一ニ示ス如クニシテ現用機ニ比シ其ノ最大水平速度略々二〇軒ノ増加ヲ示シ且最大速度ノ高度約六

〇〇米増進セリ

## 二、操縦性能

操縦性能ハ現用機ト大差ナシ但シ「プロベラ」ノ回轉方向現用機ト反對ナルヲ以テ「プロベラ」ノ後流及「ジャイロ」能率ノ影響ハ相反ス  
尙左ノ水平錐揉ニ陥リ易キヲ以テ左横轉及左錐揉ノ實施ニハ十分注意ヲ要ス

## 三、發動機

發動機ハ九四式四五〇馬力發動機ニシテ昭和八年十一月減速式トシテ所定ノ型式試験ヲ終了セルモ尙震動ヲ極度ニ減少スル爲直結式ニ改修シ昭和九年三月其ノ審査ヲ完了セルモノナリ  
其ノ主要諸元附表其ノ二ノ如シ

### 第四、試験經過

一、本性能向上ハ昭和八年度初メ九四式四五〇馬力發動機減速齒輪附一減速比〇、八六六一ヲ附シタルモノニ就キ試験セルモ震動アルヲ發見シ之カ減少ノ對策ヲ講シ昭和九年一月ヨリ更ニ直結式ヲ改修セル減速齒輪附トニ就キ併行審査ヲ開始セリ

二、  
 減速齒輪附ハ其ノ震動大ニ減少シ得タルモ尙操縦性能上直結式ヲ有利ナリト認メ爾後主トシテ直結式ノ採用ヲ目途トシ試験ヲ實施セリ  
 現用機ニ對スル重量ノ變化次ノ如シ

全備重量	プロペラ	發動機	重量區分
一五三四疋	六一、四疋	三六〇疋	性能向上機
一五五三疋	四二、四疋	四一五疋	現用機

附表其ノ一

性能向上九一式戦闘機飛行性能諸元表

一、水平飛行速度（各高度ニ於ケル最大）

高度	高度区分	性能向上機	現用機
七〇〇〇米	〇	二九二	二六五
六〇〇〇米	一	三〇三	二九六
五〇〇〇米	二	三一二	三〇三
四〇〇〇米	三	三二〇	三〇五
三六〇〇米	四	三二二	三〇五
三〇〇〇米	五	三一五	三〇五
二〇〇〇米	六	三〇三	三〇四
一〇〇〇米	七	二八九	三〇一
〇米	八	二七四	二九〇
高度	高度	水平速度杼/毎時	水平速度杼/毎時

二、上昇時間及上昇限度

備考	高度		備考
	度	分	
現用機ノ性能ハ試作機審査當時(昭和六年三月)ノ數值ナリ 一〇〇〇〇米(理論)	〇一六〇〇〇米	十一分四八秒	現用機ノ性能ハ試作機審査當時(昭和六年三月)ノ數值ナリ 九二五〇米(理論)
	〇一五〇〇〇米	八分三六秒	
	〇一四〇〇〇米	六分一八秒	
	〇一三〇〇〇米	四分三六秒	
	〇一二〇〇〇米	三分〇秒	
	〇一一〇〇〇米	一分三〇秒	
	〇一〇〇〇〇米	二分四一秒	
	〇九〇〇〇〇米	一分一九秒	
	〇八〇〇〇〇米	一分一七秒	
〇七〇〇〇〇米	八分四五秒		
〇六〇〇〇〇米	十一分三三秒		
〇五〇〇〇〇米			
〇四〇〇〇〇米			
〇三〇〇〇〇米			
〇二〇〇〇〇米			
〇一〇〇〇〇米			
〇			

附表其ノ二

九四式四五〇馬力發動機主要諸元表

單列星型空氣冷式

型式	九四式四五〇馬力發動機
氣筒數	九
氣筒中徑(耗)	一四六
衝程(耗)	一六〇
全氣筒容積(立)	二四、一
壓縮比	五、三
正規回轉數(回/分)	二二〇〇
正規與壓力(瓦/平方糎)	〇
地上正規馬力	約 四四〇
正規高度馬力	約 四九五
最大回轉數(回/分)	二四〇〇
最大與壓力(瓦/平方糎)	一〇〇〇
地上最大馬力	約 五二〇

四〇〇〇米ニテ

0832

最大高度馬力  
燃料消費率（瓦/馬時）  
重量（乾燥状態）（疋）

三六〇〇米ニテ  
特殊揮發油ニテ

約 五九〇  
二四〇乃至二五〇  
約 三六〇

0833

0833

秘  
第 七 六 七 號

航秘第 五五五號

九一式戦闘機構造要領送付ノ件通牒

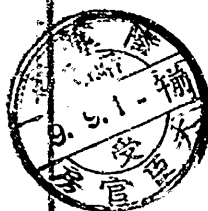
昭和九年九月壹日

陸軍航空本部副官 森

陸

陸軍省副官 平 島

滿 蒙



陸

軍



製造要領 (修正表共)

圖面送付アリシ付 第 五 五 五 號

送付アリシ付

昭和九年九月廿二日

森 折 保

右ノ付ノ事



0834

0833



航秘第 五五五號

九一式戦闘機構造要領送付ノ件通牒

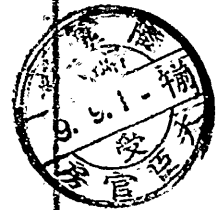
昭和九年九月壹日

陸軍航空本部副官 森

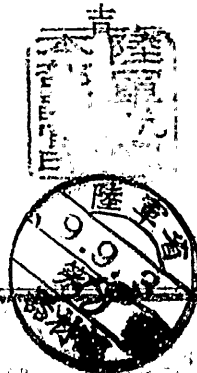
陸軍省副官 平 島 滿 廠

八月二日陸省第四七一三號通牒ノ首題改正構造要領（修正表共）

七十通送付ス



陸軍



Handwritten notes in the top left margin, including the number '908' and other illegible characters.

陸軍省 航空部

Handwritten notes in the top right margin.